

小さな剣士

第四回

一郎の決意

作画 牧秀彦
画 うえわおみ



〈前号のあらすじ〉

御前試合で勝ち抜いた井坂家の剣道の師範十蔵は藩主からの褒美を前に、井坂家の当主多門たちから祝福を受けていた。十蔵を師と仰ぐ一郎も最後に三太に負けたが今後を期待された。褒美ももらい、多門から姉清香と十蔵の婚姻も申し渡される。その夜、一人裏門に向かう十蔵を追い、不審な者との会話から、十蔵が公儀のお庭番だと知る。一郎の様子に秘密を知られたと思う十蔵は屋敷を出て行く。

一

「水瀬みなせがいなくなっただと？」
井坂多門いさかたもんがその知らせを受けたのは、いつものごとくお城づとめをするために袴かほもを着け、身じたくを終えたときの